

絶滅の恐れある淡水魚 カワバタモロコ



カワバタモロコ（徳島県提供）

徳島県のレッドデータブックで絶滅と判断されたあと、鳴門市大津町の水路に生き残っていることが分かったコイ科の淡水魚・カワバタモロコの生息地が、四国横断自動車道の延伸に伴って開発の危機にさらされていることが分かった。横断道建設する西日本高速道路会社は徳

生息地ピンチ

島大学に委託して現地でもカワバタモロコの生息調査を進めている。周辺整備を受け持つ鳴門市も近自然工法による水路の改修を検討しているが、カワバタモロコが絶滅の危機に立たされているだけに、県内の環境団体から保護を求め

修など周辺整備事業の対策に入り、本線工事の用地買収や周辺整備の話し合いが始まっている。生息地周辺は、大雨になると上流から雨水が流れ込み、道路まで冠水するなど水はけが悪く、農家の間で水路をコンクリート三面張りに改修することを求める声が出てい

カワバタモロコが生息しているのは、大津町大幸、段岡両地区にある水路。二〇〇四年八月に県の調査で見つかり、遺伝子を調べた結果、外部から持ち込まれた可能性が低いことも分かった。

生息地は、コンクリート張りの水路が少なく、なだらかな岸に水生植物が茂る土の土手が多い。水生植物が豊富なことから天敵から逃げる隠れ場

《カワバタモロコ》全長30〜60センチの日本固有種。静岡県以西の本州太平洋側、四国、九州の平野部にある河川や池、沼、水路に生息するが、コンクリート三面張りの河川改修が進み、すみかが減ったほか、ブラックバスなど魚食性外来魚の侵入で全国的に数が少なくなり、国のレッドデータブックでは「絶滅種」に次ぐ「絶滅危惧1類」に位置づけられている。

四国横断道延伸で



カワバタモロコがすんでいる水路
|| 鳴門市大津町

がたくさんあり、生息の路による有料道路方式で絶好地になっている。建設される四国横断道のしかし、西日本高速道本線が通るほか、水路改

県内環境団体 保護求める声

このため、西日本高速道路徳島工務所所では「徳島大学の調査結果をみた上で具体的な工事方法について検討したい」としている。また鳴門市は「水路改修とカワバタモロコの保護を両立させるため、できるだけ自然環境を保護する工事方法を考える」と話している。

工事計画変更を

角野康郎・神戸大学理学部教授（生態学）の話
工事計画を変更し、カワバタモロコの保護を第一に考えるべきだ。もし変更ができないなら、カワバタモロコを他の場所へ移すなど別の手段を取る必要があるだろう。

鳴門市 用水路改修を検討